

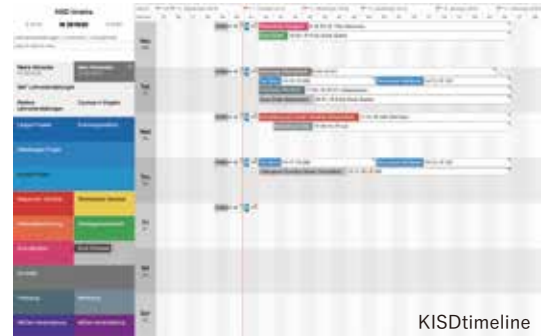
# Köln International School of Design

## 1

### 勉学の状況

#### 履修登録

9月前半は履修登録期間がありました。履修はオンライン登録期間とオフライン登録期間がある、コースの種類と量が多い、期間や時間が被らないように組み合わせを作らなければならない、など考慮すべき点が多く複雑です。KISDtimeline という履修のシミュレーションが出来るシステムを活用しながら期間一杯悩んでようやく決まりました。人気のある授業はとれない人も多く出てしまうのですが運良く概ね希望通りにとれたので来月からの意欲がより高まっています。



KISDtimeline



Pecha Kucha

#### Welcome Day

9月19日に留学生のウェルカムパーティがあり、初めてKISDの学生と顔を合わせました。KISDに関する説明を受けた後、それぞれの学校や自分自身について紹介するPecha Kuchaというプレゼンテーションを行いました。5つの質問に答えるスライドを事前に用意していたのですがデザインの分野や国によって表現方法が異なり面白かったです。このプレゼンによってある程度個人が印象付けられたように感じます。

#### KISDessentials

23～26日の4日間でKISD essentialsという校内の各施設の使い方を学ぶレクチャーがありました。初日は新生と留学生約100名全員でBlended & Writing Lab、Intercultural Training、2日目からは6グループに分かれてPhoto Studio、VR-Lab、C-Lab、Equipment Service、Screen Printing、Textile Labを体験しました。使い方は覚えきれなくても各施設には常にスタッフがいたので利用しやすいです。また、こうしたレクチャーの中でも意見を述べる機会や手を動かす機会が多く鍛えられます。



VR-Lab

Textile Lab

Screen Printing でトートバッグ作り

## 生活の状況

### 家探し

6月から寮にアプライしていましたが連絡が来ず、8月中旬から WG-GESUCHT というサイトを使って家探しを始めました。サイト内のチャットかメールや whatsapp などを通して大家さんと直接連絡をとります。何十件と送っても数件しか返信がなかったという話も聞いていたのですが、3件アプライして2件返事が来たので、とてつもなく運に助けられたと思っています。少ない経験からですが値段も含め迷いなくここがいいと思ったところが通ったので、自分と相手の生活スタイルとあっていること、経済力が心配ないこと、確実に入ること、コミュニケーションに問題がないことをアピールすることが重要なのではないかと感じました。

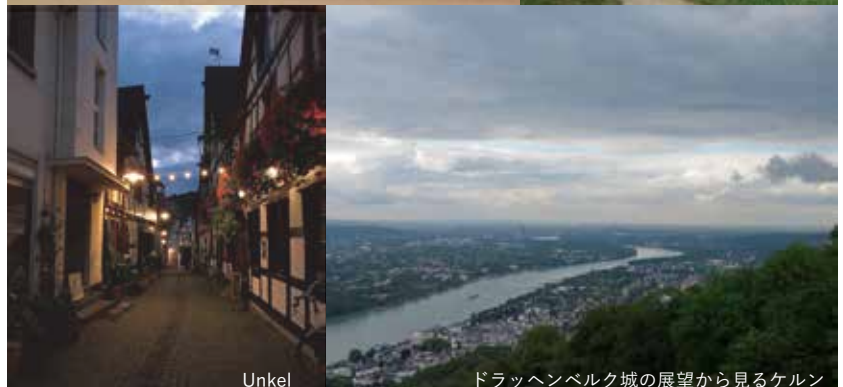


### 手続き

ついたらやるべきことは大学の冊子にもまとめられているので、順番にこなしていきます。これがないと次に進めないというものも多いため、少しずつの遅れが全体で大きな遅れにつながります。特に市役所は営業時間が短い上に営業時間 30 分前から 10 名ほど並んでいて 2 時間後に行った際には 3 時間以上待つことになったため学校が始まってからだと行ける日が限られてしまい、あっという間に遅れます。また、大学への enrollment、semester fee の振込を終えると州内の乗り物が乗り放題、シェアサイクルが使えるなど行動範囲が広がり動きやすくなります。余裕のあるうちに済ませておくのが良いと感じました。

### 街の様子など

到着直後は落書きが多く不安になりましたが、カバンが開いているのを指摘してもらえなど、油断は出来ませんが治安は良いように感じています。バリアフリーがあまり進んでおらず電車や建物でも段差が多いためか、人々がとても協力的でベビーカーや荷物を持っている人、お年寄りの方などが段差を上り下りする際は自然と手を差し伸べる人が多いこと、電車の席の譲り合いで座っている方の年齢がどんどん更新されていくことなどが印象的でした。他には街の至る所から演奏が聞こえてきたりととても暖かい街だと感じています。また、オーナーさんや大学の Buddy の方に他の街に連れて行ってもらい、ケルンとは全く違う雰囲気も味わうことができました。これからドイツの色々な面を知っていきたいです。



# Köln International School of Design

## 2

### 勉学の状況

メインの授業が始まりました。1週間のスケジュールは以下の通りです。KISDtalks と Friday presentation はない週もあります。

	月	火	水	木	金
09					
11	Gute Stube (学生カフェ)		Interface Perception		Friday Presentation
13		Toy Story		Toy Story	
15					
17	ドイツ語		ドイツ語		
19		KISDtalks			

### Cologne Resources (10.07 - 10.11)

留学生と新入生のための5日間の短期プロジェクトです。11人の教授に割り振られ、1人の先生につき15人ほどの生徒がつきます。私たちのグループは small talk のよい例と悪い例の動画を作るという課題で、ケルンを知るといふ要素があまりなかったように感じました。最終日に全グループの発表を見たのですが、劇をするグループや実際に街に仕掛けを作って住民の反応を動画に収めていたグループ、インタラクティブの展示をしていたグループなど様々で面白かったです。特に街に仕掛けを作っていたグループの発表には実行力と街の許容力の高さを実感させられこれからの授業の期待が高まりました。



### Interface Perception (10.16 - 02.05)

講義、リサーチ、ライティングを通して、インターフェイスと知覚の関係、これからの可能性について考えるセミナーです。前半は6つのグループに分かれそれぞれ Touch, Vision, Smell, Sound, Taste, Pain のなかからトピックを選びリサーチと発表を行います。毎週1グループ1時間ほどのプレゼンテーションを行い、その後全体でその内容についてディスカッションします。自分たちで授業をするため理解と興味が深まります。



## TOY STORY (10.15 - 12.06)

前半のメインの授業として TOY STORY という木を用いたおもちゃを作る約2ヶ月間の中期プロジェクトを受講しました。TOY とは何かを話し合うところから始まり、ターゲットを決めてアイデア出しをし、最終的に実際に使えるモデルを作成しました。授業は火曜日と木曜日の週2回あり毎回1人ずつ進捗を発表し意見を交換します。先生からのフィードバックだけでなく他の学生の意見ももらえるので視点が広がります。この授業で特徴的だったのは自分のアイデアだけでなく他の人のアイデアも発展させることです。アイディエーションを行なった後投票を行い、票の入ったアイデアの中から自分のアイデア1つ他の生徒のアイデア2つを選びアイデア展開を行います。自分のアイデアに固執するのではなく本当に良いアイデアを見抜く事が重要だという考えを教わりました。他の学生が考えたという意識から責任感も感じ新鮮でした。



アイデアスケッチ



プレゼンテーションの様子



wood workshopにて



最終成果物

後半からは工房での作業が増えたのですが、要望を伝えると工房についている教授やスタッフの方が適切な器具や方法を提示してくれるので自分の知識以上の事が出来るのが魅力的でした。最終のプレゼンテーションは全ての人に開かれており、実際に遊んでもらいながら感想をもらえるよい機会でした。

## 生活の状況

この2ヶ月は平日は授業と工房での作業、休日は州内の美術館や自然を巡るといった生活でした。

### DDW19 (10.25)

学校で募集していたオランダデザインウィークのバストリップに参加しました。会場は街全体で、DIGITAL, ART & COLLECTABLES, BIO DESIGN, CRAFT & NEW MATERIALS, FUTURE LIVING, TALENT, SOCIAL DESIGN, ARCHITECTURE & PUBLIC SPACE と幅広い展示がありました。学生の卒業制作の展示もありゆっくり見たかったのですがあまりに広く時間が足りなくなってしまい残念でした。



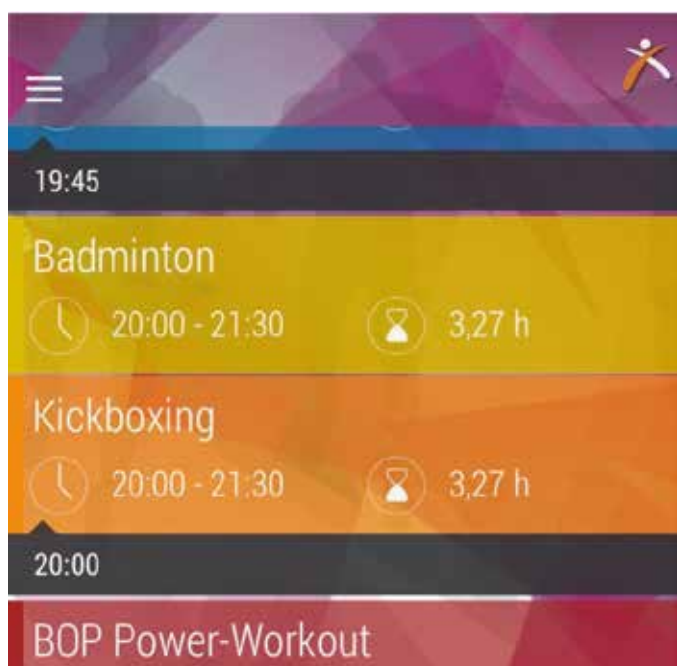
### ケルンミュージアムナイト (11.02)

このイベントでは20ユーロで19時から2時までケルン内の美術館が見放題になります。この機会を利用して気になっていた美術館を回ることが出来ました。お得だけでなく夜の美術館という普段は味わえない雰囲気を楽しめるのもよかったです。



### スポーツ

週に一回ケルンの大学のスポーツの授業に参加しています。MyHSPというアプリでその日にやっている授業や、それぞれのスポーツの情報を調べて参加します。中には道具や登録料が必要なスポーツもありますが、ヨガやカンフーなど道具を使わない個人スポーツは登録がいらない事が多いため、飛び込みで参加することもできます。他の大学や学部の学生と出会える機会にもなりました。





ランゲン美術館



はまっている粟



Dornau のぶどう園



聖ニコラオスからのプレゼント



クリスマスマーケット



校舎前の広場

## Welcome Week (2020/02/19-2020/02/21)

イタリアに移動して2日後に2日間の留学生の歓迎イベントがありました。デザイン学科の学生だけでなく建築やエンジニアの学生も合同で行われました。前半で通っていたドイツのKISDはデザインの留学生が40人程度と小規模でしたがPOLIMIはとても規模が大きく到着する頃には長蛇の列ができていました。その時に後ろに並んでいた建築学部の学生と仲良くなりましたが、同じコースの学生を見つけることはできませんでした。授業が始まれば知り合いもできてくるだろうと悠長に構えていたのですがこれがのちに後悔の元となります。ウェルカムウィークでは学内wifiの使い方や学生証のアクティベート方法、住民登録の申し込み方など学生生活へのガイダンスと工房やフォトスタジオなどデザインコースで使用する施設の紹介が主な内容でした。

## オンライン授業について

講義などの授業から徐々にオンライン授業がスタートしました。3月9日から私の所属するInterior and Spatial Design コースの授業が始まりました。オンライン授業の良いところは、後から見返すことができたり、チャット形式により質問や発言のハードルが下がる点です。授業はTeamsを用いて行われており、学生は主にチャットで発言するため、先生以外の顔を見ることができません。私の受講する授業ではグループワークがありグループ分けを自分たちでしなければなりません。学生の多くは前の学期に既に同じ授業を受けていたりと面識があるようで、まだグループを組むだけでさえも困難を感じました。これからグループワークがはじまるので不安ではありますがコミュニケーションを積極的にとっていききたいと思います。



オンライン授業の様子

## ミラノと新型コロナウイルス

ミラノでの約一ヶ月の流れを以下に示します。

- 2.17 イタリア到着
- 2.19 ウェルカムウィーク
- 2.23 授業1週間延期の連絡（授業開始予定日）
- 2.27 ミラノ全校休校、美術館封鎖、集会禁止  
ロンバルディア州危険情報レベル1
- 3.01 ロンバルディア州危険情報レベル2に引き上げ
- 3.02 オンライン授業第一弾開始（指定のコース）
- 3.07 ロンバルディア州危険情報レベル3に引き上げ
- 3.08 ミラノ封鎖、移動規制 引越し
- 3.09 イタリア全土封鎖 オンライン授業開始（スタジオとラボを除く全てのコース）
- 3.10 帰国要請
- 3.14 イタリア出国
- 3.15 日本帰国
- 3.16 全ての授業がオンラインで開講

移動してすぐにイタリア北部で COVID-19 の感染者が増え始め、23日に予定されていた授業開始は一週間延期されることとなりました。この頃は街でマスクをしているのは一部の人のみでした。

しかし状況は日々変化し、3月8日には個人の移動が大幅に制御されました。移動が許可されるのは仕事上の必要、必要に迫られた状況、健康上の理由、自宅や居住地への帰還のいずれかに該当する場合のみで、10日から自己申告フォーマットの所持が義務付けられました。この頃になるとマスクをしている人がほとんどとなり、スーパーでは入り口にビニール手袋が用意されており着用している買い物客が多数でした。

9日にフラットに引越したのですが、アジア人で大荷物を持っていたため旅行客に見えたのかバス停で一人のおじいさんに怒鳴られました。イタリア語だったため何を言っているのかはわからなかったけれど身振りなどから新型コロナウイルスについてであることはわかりました。危害を加えてくるんじゃないかという恐怖と相手が何を訴えているのかがわからないもどかしさがありました。

新しい滞在先は女性4人のシェアフラットで、スペインからの留学生とインドネシアからの留学生ともう一人は自国に帰国中でした。フラットメイトはとても優しく面倒見が良い人たちで共用スペースも綺麗で部屋からの景色もよくとても気に入りました。また、これまでアパートの一室を借りていたためキッチンを使うのに気を使っていたようで自由に料理できる嬉しさで材料などを揃え始めていました。しかし状況は深刻化していき、危険情報レベルが3に引き上げられ大学からの要請と状況を見て帰国することになりました。引越しを終えようやく生活環境が整ってきたところにすぐ帰国と、とても慌ただしいイタリア滞在となってしまいました。滅多にない経験をしたと思いをもち直し日本でも励んでまいりたいと思います。



唯一訪れることのできたコモ湖

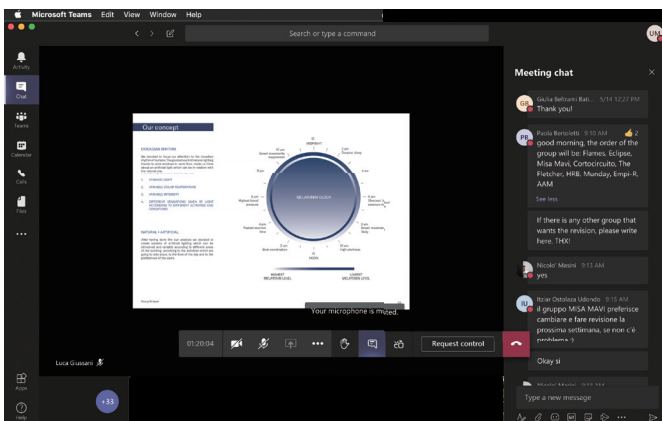


## 勉学の状況

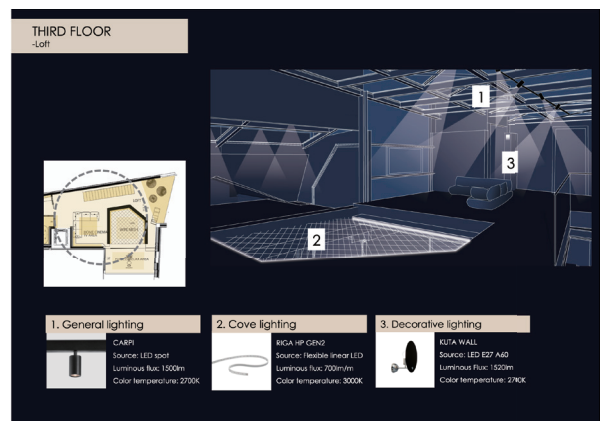
日本からオンラインで受講することになったので勉学の状況のみ報告いたします。元々3つの授業を受講することを予定していましたが、時差の問題や千葉大学院の授業を受けることなどを考慮し、以下のクラスに絞って受講することにしました。

## Lighting Design (2020/03/18-2020/07/16)

照明デザインについて実践的に学ぶクラスです。講義のパートとプロジェクトのパートに分かれていて、それぞれ先生が異なりました。一回の授業は4時間で、大体前半後半で切り替わります。講義のパートでは照明器具の種類や、用途、見つけ方、測光データの読み取り方、光や目の仕組み、など照明に関する基本知識を細かく学びました。オンラインでの開講となったので最終テストは口頭試問の形式で行われました。プロジェクトのパートでは、まず、ショップやホテル、オフィスなど異なる空間に必要な光についてエクササイズを行いながら学び、最後にグループで指定された空間の照明デザインを行いました。最終プロジェクトのレビューは授業と同じTeamで行われていたので他のグループの発表を見ることもできました。しかし、8割ほどのグループが全員イタリア語を話せるグループで、イタリア語での発表、レビューも多く、Google翻訳の音声入力で訳していたのですが少ししか理解できなかったのがもったいなかったです。また、全く会ったことのない人とオンラインでグループワークだったため、自然と関係が築かれることがなかったり、認識にズレがあるまま作業が進んでしまったりと難しいこともありましたが、少しずつ改善して慣れていくと作業を上手く分担してワークを行えるようになりました。オフラインで受講できないことが決定したときはとてもショックでしたが、今後オンライン化が進んでいく中で避けられないことでもあったので経験できてよかったと思います。



他のグループのレビューの様子



最終提案のスライドの一部

## 最後に

想像していた形とは違う形で留学が終わることになりましたが、それも含めて貴重な体験ができたと思います。恵まれた環境、機会のありがたさも再実感しました。留学を支えてくださった方々、留学中に関わってくれた方々に大変感謝いたします。イタリアには、やりたかったことや行きたかった場所も多く残っているので将来また訪れたいと思います。